

キャリア

- 1989年～ 現場で設備の性能データ分析（プログラミング独学）
- 1998年～ 海外7か国で省エネ事業（運用改善による性能向上）
- 2015年～ RPAヘビーユーザー（「WinActor」「BizRobo!」「AA」「UiPath」制覇）
- 2022年～ 市民開発CoEを兼務（現場との橋渡し役）
- 2025年～ 市民開発チーム増員（現場ユーザー育成）

市民開発のメリット

- 内製で非ITユーザー自身がアプリをスピーディーに「開発」「改修」「廃止」
- 開発プロセス全体（「要件定義」「設計」「実装」）を体験
- 要件定義力（言語化スキル）向上 ⇒ デジタル部門と業務部門との合意形成

FY24課題とFY25対策

- 累計ユーザー1200名の内、開発者90名、120体のロボが本番稼働
- シャドーIT・アプリ乱立を防止 ⇒ 市民開発ガイドラインで統制
- トレーニング・サポート体制の不足 ⇒ 学習カリキュラム拡充・サポート要員の育成

専門開発 vs 市民開発（棲み分け）ガイドライン

専門開発

- 基幹システム連携など重要データを扱う
- アプリ停止が事業継続に甚大な影響を及ぼす

市民開発

- 日常業務の効率化・自動化
- RPA x AIによる「情報収集」「要約」

全社員によるニーズ発掘と提案フロー



市民開発チームが伴走

経営層のニーズ

OM（副社長・執行役員）

- 人員不足で自動化は必須
 - スピーディーに「開発」「改修」
- 対応策：
変革コミュニティ/RPA分科会で支援中

最適化（常務執行役員）

- 業務改善勧告への短期（数か月）対応
 - RPA x AIによる「情報収集」「要約」
- 対応策：
改革ポータルで連携・可視化中

今後の課題と展望

市民開発サポート要員の育成

- サポート要員を育成
- 現場ハンズオン研修を強化




業務部門とのコラボレーション促進

- 短期集中型社内インターンシップ新設
- 部門横断の連携を促進しナレッジ共有

課題と対策

領域	FY24課題	FY25対策
ガバナンス	シャドーIT・アプリ乱立	ガイドライン制定による統制 (不要アプリ廃止など)
開発者育成	トレーニング・サポート体制の不足	学習カリキュラム拡充 サポート要員の育成
新規ユーザー減少	新規ユーザー獲得 継続利用の不足	サンプルロボ提供などプロモーション強化




市民開発の最新動向

-  **労働力不足の深刻化:**
2025-2040年にかけて生産年齢人口が減少、業務効率化が急務。
市民開発は全社員のDX人材化を通じた解決策として注目。
-  **技術革新の影響:**
ローコードツールの進化により非IT人材でもアプリ開発が可能に。
-  **効果の顕在化:**
業務自動化アプリ内製化による生産性向上事例が増加。

各指標の変化

指標	FY2023	FY2024	変化	変化率
利用者数	431人	422人	-9人	-2.1%
開発者数	29人	36人	+7人	+24.1%
稼働中ロボ数	22体	40体	+18体	+81.8%
開発中ロボ数	22体	41体	+19体	+86.4%
削減時間	10.35千時間	13.96千時間	+3.61千時間	+34.9%
削減金額	65百万円	85百万円	+20百万円	+30.8%

ポイント

-  **開発者数:** 29人 → 36人 (+24.1%)
スキル習得者の増加により活動が活発化し、裾野が拡大。
-  **ロボット数:**
稼働中: 22体 → 40体 (+81.8%)
開発中: 22体 → 41体 (+86.4%)
自動化範囲の拡大と開発ベースの加速が顕著。
-  **効果指標:**
削減時間: 10.35千時間 → 13.96千時間 (+34.9%)
削減金額: 65百万円 → 85百万円 (+30.8%)
業務効率化の成果が大幅に増大。

グラフ

